

2022年9月1日

全国高等学校体育連盟加盟校

学校長 殿

陸上競技部顧問 殿

公益財団法人日本陸上競技連盟

専務理事 風間 明

医事委員長 山澤 文裕

公益財団法人全国高等学校体育連盟

陸上競技専門部

部長 小林 正基

不適切な鉄剤注射の防止について

平素より陸上競技界の発展のため、ご尽力いただき感謝申し上げます。

日本陸上競技連盟と全国高等学校体育連盟は、競技者の健全な発達と生涯にわたる心身の健康保持の観点から、アンチ・ドーピング活動の推進とともに、不適切な鉄剤注射の防止について、陸上競技およびスポーツ界全体における重大な問題として取り組んでおります。国も事態を重く捉え、2019年にはスポーツ庁3課長連名で、全国の高等学校長に対して注意喚起を行ったことをご承知のとおりです。また、日本陸上競技連盟は全国の指導者と競技者に向けて「鉄分の過剰摂取を防ぐための貧血対処の提示」「不適切な鉄剤注射の防止に関するガイドラインの策定」などによる啓発を行ってまいりました。

その一環として、中・長距離走を専門とする競技者への安易な鉄剤注射を防ぐため、全国高等学校駅伝競走大会参加者における身体計測と血液検査を実施しております。得られた結果より、鉄剤が投与されるべき競技者はわずかであることが明白であり、このことを全国高等学校駅伝競走大会参加校指導者に対してフィードバックいたしました。

このような中、2021年度に開催された男子第72回・女子第33回全国高等学校駅伝競走大会参加者において、医師の判断による措置ではありましたが、鉄欠乏状態とは言えない（鉄剤投与前の検査における血清フェリチンの数値は正常範囲であった）にもかかわらず、鉄剤注射が行われたことが判明しました。競技者の健康状態やパフォーマンスに影響は無かったものの、該当競技者、指導者、保護者及び医師より事情を聴取し、詳細な調査を行いました。その上で、医療行為を含め最終的に競技者に責任が生じるというアンチ・ドーピングの観点を含め、実施された鉄剤注射は不適切であったと判断し、嚴重注意といたしました。

今後とも、日本陸上競技連盟と全国高等学校体育連盟は、不適切な鉄剤注射の根絶に向け、指導者、競技者、関係各所への周知徹底を強化するとともに、食生活事およびトレーニングの改善による貧血予防対策や鉄剤の適切な摂り方についての教育・啓発を引き続き行います。各校の皆様におかれましては、「不適切な鉄剤注射の防止に関するガイドライン」を再度ご確認ください、活動現場における適切で安全な指導にご尽力いただきたく、改めてお願い申し上げます。

以上